

設置の趣旨等を記載した書類

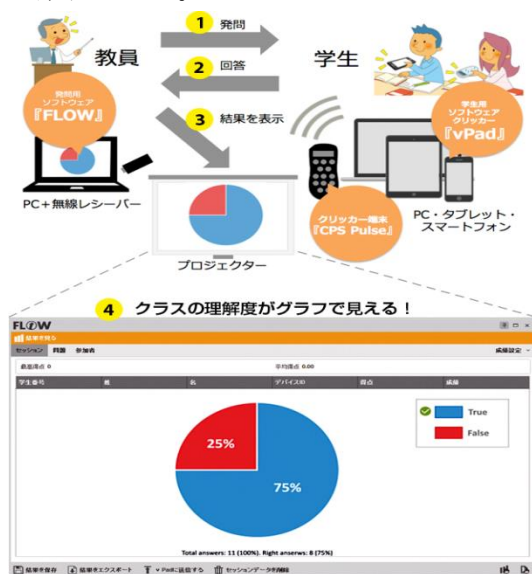
資料目次

資料 1	本学大学院で使用するクリッカーの特徴
資料 2	志願者・入学者の推移，保育・教育関連の資格取得状況及び就職先状況
資料 3	大学院設置に関する小学校長・幼稚園長・保育所長へのアンケート調査内容及び回答結果
資料 4	保育担当者へのアンケート集計表及び調査内容
資料 5	本学大学院進学需要に関する学生へのアンケート
資料 6	教育課程の構成
資料 7	履修科目の順序性
資料 8	履修モデル構成図
資料 9	修士論文作成スケジュール
資料 10	教員の定年特例申合せ等
資料 11	各教員の時間割
資料 12	子育て支援地域センター（文教ペンギンルーム）ホームページ
資料 13	北海道文教大学研究倫理規程
資料 14	履修モデルⅠ～Ⅲ
資料 15	学部と共有する施設、大学院専有施設図面
資料 16	こども発達学専攻の院生研究室器具等配置図
資料 17	こども発達学研究科関連図書及び雑誌一覧
資料 18	既設のこども発達学科とこども発達学専攻の相関

資料 1

本学大学院で使用するクリッカーの特徴

1. クリッカーの一般的な活用例: 下図のように、学生の理解度をリアルタイムで、グラフで表示。クラスの状況に合わせて、授業を進めることができる。このことによって、①学生の意欲の向上、②先生の授業の質の向上、が期待できる。



2. PF-NOTE プロトタイプ (クリッカー) の活用例 (北海道文教大学大学院)

① 受講者全員によるロールプレィの振り返りによる効果: 図1は、いい場面が観察されたときにクリッカーを打った結果をまとめたものである。結果は、時間軸に沿ってグラフ化されている。振り返りにあたっては、特徴的グラフ場面 (受講生の多くがクリッカーを打ち、グラフの山が高くなっているところ) にカーソルを当て、対応するビデオ映像を再生し、視聴した後で、「どうして、この場面がいい場面と判断したか」に

ついて、全員で焦点化した討議をすることが可能で、自己と他者の視点の当て方の違いについて新たな気づきを広げることが可能である。さらに、「気になる場面」「改善可能な場面」など、複数のクリッカーにボタンに意味づけをして、討議情報に厚みをつけることも可能である。

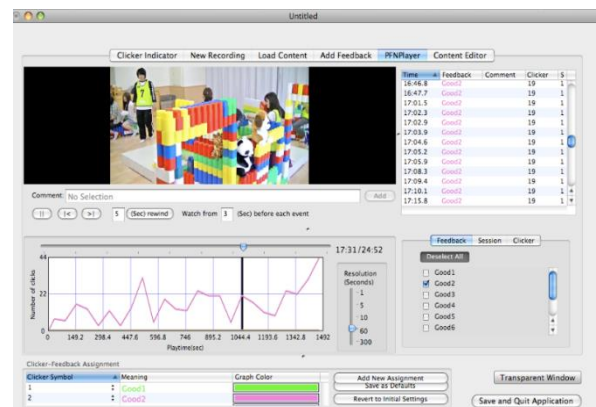


図1. ロールプレィ場面の分析例

② 受講生と熟達者の「いい場面」についての可視化グラフの比較による討議の効果

図1, 2のグラフの特徴的場面のビデオ映像を比較し、両者の視点の当て方の違いについて討議することによって、受講生はさらに、行動観察力を深めることが出来る。

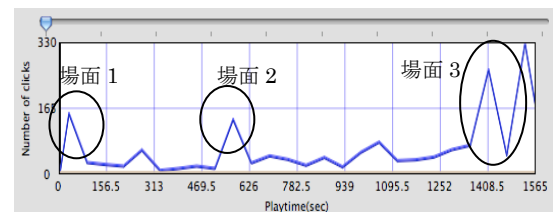


図2. 受講生の可視化グラフ

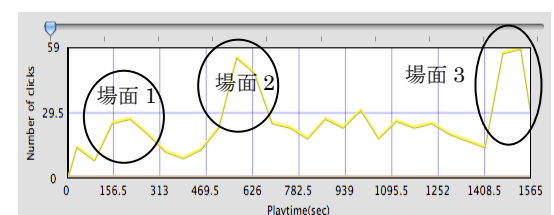


図3. 教員 (熟達者) の可視化グラフ

資料 2

志願者・入学者の推移、保育・教育関連の資格取得状況及び就職先状況

表 1 志願者・入学者の推移

年度	定員	総志願数	第一志願者	第二志願者	入学者数	定員充足率
2010	80	150 名※	88 名	62 名	66 名	82.5%
2011	80	287 名	232 名	55 名	95 名	118%
2012	80	320 名	259 名	61 名	102 名	127%
2013	80	357 名	303 名	54 名	103 名	128%
2014	100	256 名	234 名	22 名	111 名	111%
2015	100	256 名	207 名	49 名	115 名	115%

※2010 年度は設置認可が 12 月 24 日付であった為、短期間の学生募集活動であった。

表 2 保育・教育関連の資格取得状況本学

卒業生数	小学校教諭 1 種	特別支援学校教諭 1 種	幼稚園教諭 1 種	保育士資格
1 期生 62 名 (100%)	35 名 (56%)	48 名 (77%)	59 名 (95%)	34 名 (54%)
2 期生 84 名 (100%)	28 名 (33%)	68 名 (80%)	78 名 (92%)	64 名 (76%)

表 3 就職先状況

卒業期	A 保育園	B 小学校・特別 支援学校	C 幼稚園	A～C 小計	指導員 ・支援員	総合職 ・一般職
1 期生	30.8%	21.2%	19.2%	71.2%	17.3%	11.5%
2 期生	41.8%	11.4%	20.2%	73.4%	12.7%	13.9%

資料 3

大学院設置に関する小学校長・幼稚園長・保育所長へのアンケート調査内容及び回答結果

	1. 研究科の設置の構想について、関心がありますか				2. 本研究科は、3つの資質を備えた教育者の養成を目指していますが、その必要性について、どのように思われますか			
	①強く関心がある	②やや関心がある	③あまり関心がない	④全く関心がない	①大いに必要	②やや必要である	③あまり必要でない	④全く必要でない
小学校 116校	23(20%)	83(72%)	10(9%)	0(0%)	88(76%)	27(23%)	1(1%)	0(0%)
幼稚園 61園	12(20%)	46(75%)	3(5%)	0(0%)	42(69%)	18(29%)	1(2%)	0(0%)
保育所 105所	18(17%)	80(76%)	6(6%)	1(1%)	80(76%)	24(23%)	1(1%)	0(0%)
総計 282施設	53(19%)	209(74%)	19(8%)	1(0.4%)	210(74%)	69(24%)	3(1%)	0(0%)

	2. 本研究科は、3つの資質を備えた教育者の養成を目指していますが、その必要性について、どのように思われますか？				3. 一般のこどもたちと障がいのある子ども達のインクルーシブな教育・支援の出来る教育・保育者			
	①大いに必要	②やや必要である	③あまり必要でない	④全く必要でない	①大いに必要	②やや必要である	③あまり必要でない	④全く必要でない
小学校	83(72%)	29(25%)	4(3%)	0(0%)	89(77%)	26(22%)	1(1%)	0(0%)
幼稚園	43(70%)	17(28%)	1(2%)	0(0%)	47(77%)	14(23%)	0(0%)	0(0%)
保育所	84(80%)	18(17%)	3(3%)	0(0%)	87(83%)	18(17%)	0(0%)	0(0%)
総計	210(74%)	64(23%)	8(3%)	0(0%)	223(79%)	58(21%)	1(0.4%)	0(0%)

	3. 貴学の職員が、夜間・土曜開講の条件を活用して本研究科で修学したいと申し出たとき、いかがなさいますか？				4. 本研究科は、平日の夜間および土曜日に開講します。この条件を生かして、貴学の職員に、本研究科への修学を勧めますか			
	①大いに応援する	②やや応援する	③あまり応援しない	④全く応援しない	①大いに勧める	②やや勧める	③あまり勧めない	④全く勧めない
小学校	81(70%)	31(27%)	4(3%)	0(0%)	22(19%)	65(56%)	25(22%)	4(3%)
幼稚園	30(49%)	26(43%)	4(7%)	1(2%)	9(15%)	30(49%)	18(30%)	4(7%)
保育所	44(42%)	49(47%)	7(7%)	5(5%)	7(7%)	61(58%)	28(27%)	9(9%)
総計	155(55%)	106(38%)	15(5%)	6(2%)	38(13%)	156(55%)	71(25%)	17(6%)

	5. 貴学の職員が、夜間・土曜開講の条件を活用して、本研究科で修学したいと申し出たとき、いかがなさいますか？			
	①大いに考える	②やや考える	③あまり考えない	④全く考えない
小学校	81(70%)	31(27%)	3(2%)	1(1%)
幼稚園	26(43%)	32(52%)	2(3%)	1(2%)
保育所	59(56%)	39(37%)	5(5%)	2(2%)
総計	166(59%)	102(36%)	10(4%)	4(1%)

資料 4

保育担当者へのアンケート集計表

対象施設	回答のあった「気になる子どもの保育担当者」の内訳		
	札幌市	石狩管内	合 計
保 育 所 (105 園)	130 人	38 人	168 人
幼 稚 園 (61 園)	88 人	28 人	116 人
総 計	218 人	66 人	284 人

項目 対象	設問 9. 保育担当者の意識(複数回答可) ()は% *太字の部分は大学院関連回答項目											
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
保育士 (168 人)	106	40	35	19	51	9	62	46	27	92	21	73
幼稚園教諭 (116 人)	64	16	24	14	48	5	37	30	13	60	12	34
総 計	170 (59.9)	56 (19.7)	59 (20.8)	33 (11.6)	99 (34.9)	14 (4.9)	99 (34.9)	76 (26.8)	40 (14.1)	152 (53.5)	33 (11.6)	107 (37.7)

項目 対象	設問 10. 発達支援の今後の必要性(複数回答可) ()は% *太字の部分は大学院関連回答項目					
	①	②	③	④	⑤	⑥
保育士 (168 人)	60	23	133	72	71	77
幼稚園教諭 (116 人)	32	17	78	30	45	54
総 計	92 (32.4)	40 (14.1)	211 (74.3)	102 (35.9)	116 (40.8)	131 (46.1)

項目 対象	設問 11. 発達支援のこれからのあり方(複数回答可) ()は% *太字の部分は大学院関連回答項目							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
保育士 (168 人)	89	12	5	27	115	80	15	2
幼稚園教師 (116 名)	50	8	4	11	75	38	11	1
総 計	139 (48.9)	20 (7.0)	9 (3.2)	38 (13.4)	190 (66.9)	118 (41.5)	26 (9.2)	3 (1.1)

アンケート調査内容

【特別なニーズを有する子どもの保育担当の先生ご記入用】

1. 下記の記入欄に、ご担当している子どものうち、「特別なニーズを有する子ども（発達・行動面が気になる子ども・障がい児など）」と思われる子どもを1名選び、その子どもについて、記入例を参照の上、該当する項目に○印をお願いします。

①子供の 名前	②性別	③特別なニーズを有する子ども（発達・行動面が気になる子ども・障がい児など） （併せ持つ発達面の課題があれば、複数の項目番号に○印をお付けください）	
（記入例） Aちゃん	①.男子 2.女子	① 知的発達面の支援が必要な子ども 3. 情緒発達面の支援が必要な子ども 5. 視覚発達面の支援が必要な子ども	2.運動機能面の支援が必要な子ども ④ 聴覚発達面の支援が必要な子ども 6. 発達面・行動面が気になる子ども
（記入欄） 略号で記入 （ ）	1.男子 2.女子	1. 知的発達面の支援が必要な子ども 3. 情緒発達面の支援が必要な子ども 5. 視覚発達面の支援が必要な子ども	2. 運動機能面の支援が必要な子ども 4. 聴覚発達面の支援が必要な子ども 6. 発達面・行動面が気になる子ども

2. 今回、回答対象としてお選びになった「特別なニーズを有する子ども（以下、Aちゃんという）」の入園当初はどのようなものでしたか。該当する項目に○印をお願いします。（複数回答可）

- 1) 集団になじまない。 2) コミュニケーションが成立しない。 3) 身の自立ができていない。
4) 特定のものに興味を示したり、あるいは嫌がったりする。 5) 自分で動こうとしない。
6) 他児に乱暴する。 7) 運動機能面において他児よりおくらしている。 8) その他

3. Aちゃんに対する指導方法について該当する項目番号に○印をお願いします。（複数回答可）

- 1) 一般の子どもたちのクラスに入れて指導している。 2) 特別なクラスを作って指導している。
3) 一般の子どもたちのクラスに入れているが、個別指導も行っている。
4) 特別なクラスを作っているが部分統合を行い、徐々に、一般のクラスに入れて保育する方向をとっている。
5) 毎日通園させている。 6) 週に何回か通園させている。 7) 特別の時間だけ通園させ保育している。
8) 相談機関、または専門医に相談しながら指導している。
9) 保護者に対して特別に指導している。 10) 他人、集団に慣れ、その中で行動できるように指導している。
11) 会話が成立するように、また、自分から話せるように配慮している。
12) 周囲の子どもとの理解を深めるように指導している。 13) 子どもの興味、行動をひきだすように工夫している。
14) 人にたよらず自分で身のまわりの事ができるように指導している。 15) その他

4. Aちゃんは入所・入園当初にくらべ、現在、どのような状態ですか。該当する項目番号に○印をお願いします。

- 1) 大変良くなった。 2) 良くなった。 3) 当初とかわりがない。 4) 少し悪くなった。 5) 大変悪くなった。

5. Aちゃんの他の子どもとの関係についてお聞きます。該当する項目に○印をお願いします。（複数回答可）

- 1) 他の子どもからの働きかけに応じている。 2) 他の子どもに働きかけることができる。
3) 他の子どもと一緒に遊ぶことができる。 4) グループの活動に参加できる。
5) まわりの子どもたちがめんどうをみってくれる。 6) なかの良い友達がいる。 7) その他

6. 日常、Aちゃんの保護者に対して、どのような関わりを取られていますか。お聞かせ下さい。（複数回答可）

- 1) 定期的に相談できる機会を提供している。 2) 連絡帳を活用してお互いの情報交換をするように努めている。
3) 園に迎えに来た時や保護者と出会った時には、できるだけ、最近の本児の様子を伝えるようにしている。
4) 一般の子どもたちと同じに、保護者との懇談の時に、本児の様子についてお互いに情報交換をしている。
5) 一般の園児の保護者と同じようにしており、Aちゃんの保護者に対して、特別な対応をしていない。

7. Aちゃんがクラスにいることによって、まわりの子どもたちにどのような影響がでてきているのでしょうか。該当する項目番号に○印をお願いします。（複数回答可）

- 1) 身についた生活習慣がくずれる。
2) お互いに助け合い、集団としてのまとまりができる。
3) 保育の流れがさまたげられ、子どもが課題や遊びに集中できなくなる。
4) Aちゃんのまねをして好ましくない行動をする。
5) いたわり、思いやり、助け合う心が育つ。
6) まわりの子どもがAちゃんの世話をやきすぎ、まわりの子どもが自分のことをおろそかになる。
7) 保育者がAちゃんにつきっきりになってしまうことから、まわりの子どもに不満が生じ不安定になっている。

（裏面に続く）

8. 周りの子どもたちが、Aちゃんに与える影響について、該当する項目番号に○印をお願いします。(複数回答可)
- 1) まわりの子どもたちから刺激を受け、発達が促進される。
 - 2) みんなと遊べるようになり、友達関係が広がる。
 - 3) 適切な指導がなされないため、取り残されることが多い。
 - 4) 生活習慣の自立が促進される。
 - 5) 仲間はずれにされるので、ひとりでいることが多くなる。
 - 6) 以前よりも行動が活発になる。
 - 7) まわりの子どもから学びとるものが多く、生活経験が広がる。
 - 8) 幼稚園・保育所に積極的に来るようになる。
 - 9) 指導に従って集団行動ができるようになる。
 - 10) まわりの子どもが世話をやきすぎ、Aちゃんが自立できない。
 - 11) 集団行動ができず強制されたり叱られたりすることが多いためかんしゃくを起こしたり甘えることが多くなる。
 - 12) 成長するにつれて、まわりの子どもとの発達の差が大きくなり、行動全般が消極的になる。

9. Aちゃんをご担当している先生にお聞きします。該当する項目番号に○印をお願いします。(複数回答可)

- 1) 発達面に課題のある子どもについて、勉強することができてよい。
- 2) 専門的な知識が無いのでいつも不安である。
- 3) 助け合う子どものための保育者の集団が育ってくるのでよい。
- 4) 保護者から感謝されやりがいを感じる。
- 5) 困難をのりこえて成長する子どもの生きる力に喜びを感じる。
- 6) 一般の子どもの保護者の理解が得られず苦勞する。
- 7) 一般の子どもの数倍の注意や労力がある。
- 8) 子どもを見る目が育ち、指導技術がこまやかになる。
- 9) Aちゃんに手をとられ、一般の子どもたちに対する指導が十分できない。
- 10) 子どもの発達の筋道について、あらためて勉強することができる。
- 11) 記録の整理、保育者との連絡などに時間をとられることが多い。
- 12) 保護者に、Aちゃんのもつ問題やこれからの取組を理解してもらうことに工夫が求められている。

10. Aちゃんのような子どもの発達支援を進めていくうえで、今後、どのようなことが必要と考えますか。該当する項目に○印をつけて下さい。(複数回答可)

- 1) 保育に関する研修会の開催。
- 2) 他の園との交流・情報交換。
- 3) 専門家による巡回指導。
- 4) 保育を進める上で相談できる指導センターの設置。
- 5) 複数担任制の採用。
- 6) 特別なニーズを有する子どもに関する専門性の高い学習の機会が必要。

11. Aちゃんのような子どもに対するこれからの発達支援のあり方として、適当と思われる項目に、○印をお願いします。(複数回答可)

- 1) 「Aちゃんのような子どもの今後の発達支援」は、現在の保育所や幼稚園の指導体制を改善する中で、一般の子どもたちも障がいのある子どもたちも、みんな一緒にインクルーシブな保育を中心に進めていくのが適当と思われる。
- 2) 保育の現場は、「Aちゃんのような子どもの発達支援」について模索している状態である。この打開策の1つとして、専門の大学院に、現職の職員を派遣して、園に新風を吹き込むことも1つの方法である。
- 3) 大学院生の教育活動の一環として、現職大学院生の所属する園の研究会・検討会に大学院担当教員が参加し、その園の抱えている課題について一緒に考えていくシステム作りが大切である。
- 4) 「Aちゃんのような子どもの発達支援」は、それぞれの園の一般の子どもたちに対する保育計画を基本として進めるのが適当と思われる。
- 5) 「Aちゃんのような子どもの発達支援」は、その子どもが持つ「特別なニーズ」の特性に合わせた保育計画を組み、進めることが適当と思われる。
- 6) これからの「Aちゃんのような子どもの発達支援」は、自治体が、自治体がこれまで以上に、「巡回指導専門員」の派遣などの「保育支援のシステムを整備」を押し進めていくのが適当と思われる。
- 7) これからの「Aちゃんのような子どもの発達支援」の取組は、大学などにおいて、インクルーシブな保育に関する専門的な研修を修了した者を採用して、園全体で組織的に進めていくことが必要と思われる。
- 8) これからの「Aちゃんのような子どもの発達支援」は、現在の保育知識で十分指導できる見通しがある。

12. 保育所・幼稚園を卒園後の「Aちゃんのような子どもの発達支援」について、将来、どのように進めるべきか、該当する項目に○印をお願いします。(複数回答可)

- 1) 現在の小学校の指導体制を工夫する中で、「Aちゃんのような子ども」に対して、みんな一緒に活動を共有するインクルーシブな教育を視野に入れた通常学級の間を構築していくことが適切であると思われる。
- 2) 「Aちゃんのような子ども」に対する教育は、施設や人手がかかり専門的知識が要求されるので、特別支援学級や特別支援学校のような場で教育を受けるように進めていくことが適切であると思われる。
- 3) 「Aちゃんのような子ども」に対する教育は、診断や治療を中心とする指導センターを作り、そこと連携をとり、地域の小学校において対応していくのが適切と思われる。
- 4) 「Aちゃんのような子ども」の教育は、地域の学校の特別支援学級の受け入れ幅を大きくし、家庭から通える学級をたくさんふやすことが大切である。
- 5) 基本的に通常の学級(普通学級)に在籍し、Aちゃんのような子どもたちの「ニーズ」にあった通級制の学級を多数設置し、教育を進めることが、大切であると思われる。

(ご回答ありがとうございました。)

資料 5

本学大学院進学需要に関する学生へのアンケート

表 1 回答状況

	1 年生	2 年生	3 年生	合 計
調査対象者数	115	111	103	329 名
回 答 者 数	108	101	96	305 名
回 答 率	94%	91%	93%	93%

表 2 大学院進学需要に関する学生へのアンケート結果

1.学年	2.研究科設置の関心度合い				3.事情が許せば本学に進学したいか				
	①強く関心がある	②やや関心がある	③あまり関心がない	④全く関心がない	①とても思う	②やや思う	③あまり思わない	④全く思わない	その他
1 年生	24	64	15	5	8	39	50	11	0
2 年生	9	40	39	13	6	26	51	18	0
3 年生	5	39	39	13	5	12	55	23	1
全 体	38(12%)	143(47%)	93(30%)	31(10%)	19(6%)	77(25%)	156(51%)	52(17%)	1

1.学年	4.人材養成目標のうちどの資質を磨きたいか ① 創意ある実践を展開できる教育者 ② 幼児期・学童期の連続性を視野においた教育者 ③ インクルーシブな教育・支援のできる教育者							
	ア①	イ②	ウ③	エ①②	オ①③	カ②③	キ①②③	その他
1 年生	6	7	5	17	17	14	41	1
2 年生	14	7	19	8	9	13	30	1
3 年生	8	5	18	8	16	14	24	3
全 体	28(9%)	19(6%)	42(14%)	33(11%)	42(14%)	41(13%)	95(31%)	5(2%)

	5.就職後教職に就いたとして夜間・土日に学習したいか				
	① とても思う	② やや思う	③ あまり思わない	④ 全く思わない	その他
1 年生	16	51	33	6	2
2 年生	6	36	43	15	1
3 年生	5	19	51	18	3
全 体	27(9%)	106(35%)	127(42%)	39(13%)	6(2%)

資料 6

教育課程の構成

科 目 区 分		科 目 名	履修方法
実践力の基礎科目群	発達支援に関する総論	こども発達支援総論	2 単位必修
	こども発達学基礎科目	こども発達特論 教育課程・方法特論 インクルーシブな教育・保育特論	2 科目 4 単位必修
	こども発達支援教育関連科目	教育内容・教材特論 教育方法実践特論 特別支援教育コーディネーター特論 保護者支援特論 こども発達支援・臨床相談特論 特別支援教育方法特論	2 科目 4 単位以上選択
理論と実践の往還から学ぶ科目群	こども発達支援教育関連演習科目	こども発達特別演習 教育課程・方法特別演習 教育内容・教材特別演習 教育方法実践特別演習 発達障害実践特別演習 こども発達支援・臨床相談特別演習 気になる子どもの発達支援特別演習	2 科目 4 単位以上選択
	こども発達学実践演習科目	発達支援活動分析評価法実践演習 こども発達学実践演習Ⅰ こども発達学実践演習Ⅱ こども発達学実践演習Ⅲ	2 科目 4 単位選択
研究指導		こども発達学特別研究Ⅰ こども発達学特別研究Ⅱ こども発達学特別研究Ⅲ	3 科目 6 単位必修

資料 7

履修科目の順序性（太字は必修科目、※印の科目は選択必修科目）

	1 年 次		2 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
実践力の基礎科目群	こども発達支援総論、こども発達特論、教育課程・方法特論、インクルーシブな教育・保育特論	教育方法実践特論 教育内容・教材特論 特別支援教育コーディネーター特論 保護者支援特論	こども発達支援・臨床相談特論	特別支援教育方法特論
理論と実践の往還から学ぶ科目群	発達支援活動分析評価法実践演習	こども発達特別演習 教育課程・方法特別演習 教育内容・教材特別演習 教育方法実践特別演習 発達障害実践特別演習	こども発達支援・臨床相談特別演習 ※こども発達学実践演習Ⅰ ※こども発達学実践演習Ⅱ ※こども発達学実践演習Ⅲ	気になる子どもの発達支援特別演習
研究指導		こども発達学特別研究Ⅰ	こども発達学特別研究Ⅱ	こども発達学特別研究Ⅲ

こども発達学専攻 時間割

1 年前期

講時	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00～10:30						こども発達支援総論
2	10:40～12:10						こども発達特論
3	13:00～14:30						教育課程・方法特論
4	14:40～16:10						発達支援分析評価法実践演習
5	16:20～17:50	こども発達支援総論		発達支援分析評価法実践演習			インクルーシブな教育・保育特論
6	18:00～19:30						

1 年後期

講時	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00～10:30						教育内容・教材特論
2	10:40～12:10						教育内容・教材特別演習
3	13:00～14:30						教育内容・教材特別演習
4	14:40～16:10						こども発達支援・臨床相談特論
5	16:20～17:50	発達障害実践特別演習		特別支援教育コーディネーター特論			教育方法実践特論
6	18:00～19:30	こども発達学特別研究Ⅰ		保護者支援特論			教育方法実践特別演習
7	19:40～21:10			こども発達特別演習			こども発達学特別研究Ⅰ

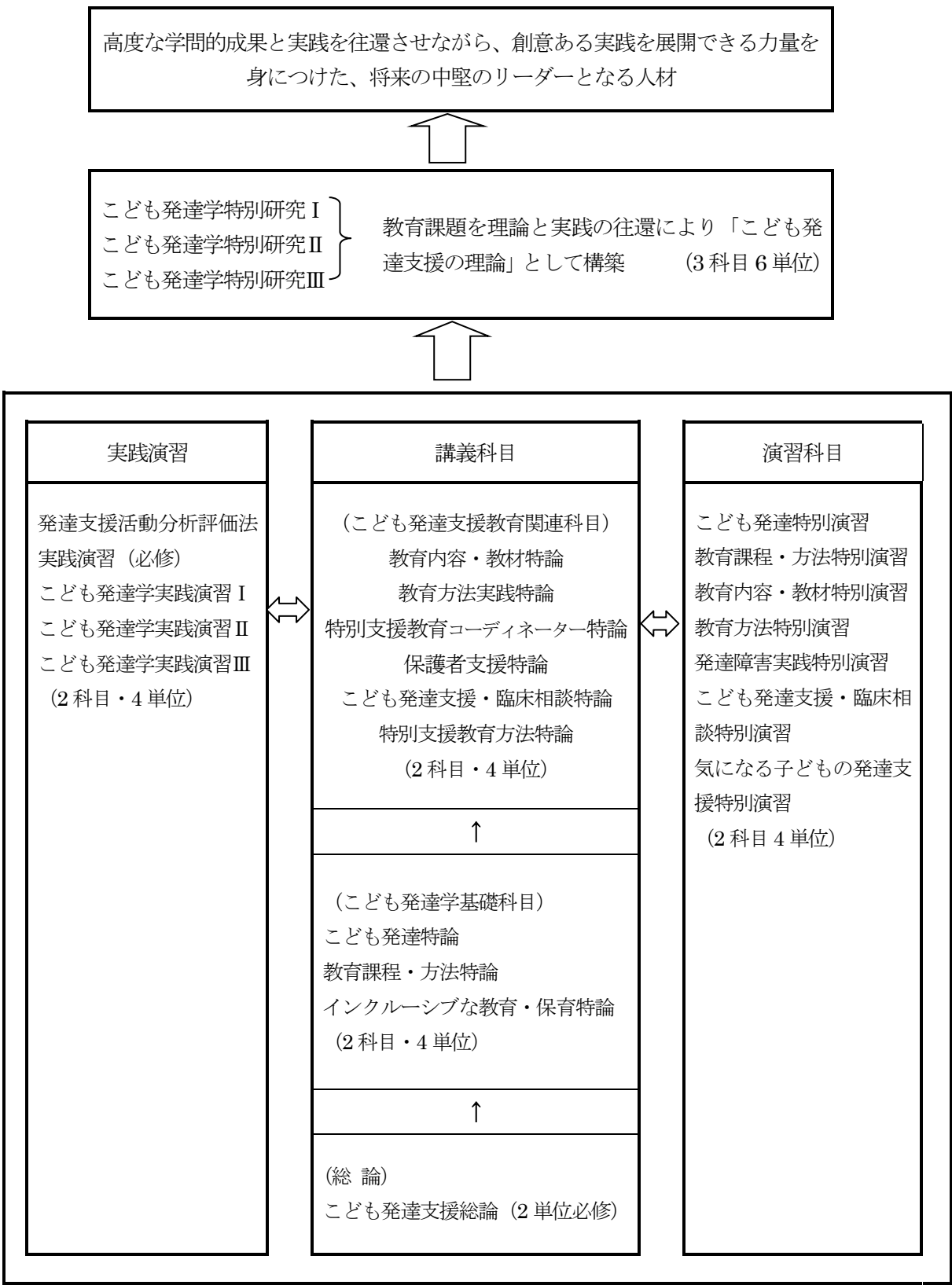
2 年前期

講時	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00～10:30			こども発達学実践演習Ⅰ			こども発達学実践演習Ⅰ
2	10:40～12:10			こども発達学実践演習Ⅱ			こども発達学実践演習Ⅱ
3	13:00～14:30			こども発達学実践演習Ⅲ			こども発達学実践演習Ⅲ
4	14:40～16:10						こども発達支援・臨床相談特別演習
5	16:20～17:50						こども発達学特別研究Ⅱ
6	18:00～19:30	こども発達学特別研究Ⅱ					
7	19:40～21:10						

2 年後期

講時	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00～10:30						特別支援教育方法特論
2	10:40～12:10						気になる子どもの発達支援特別演習
3	13:00～14:30						
4	14:40～16:10						
5	16:20～17:50	こども発達学特別研究Ⅲ					
6	18:00～19:30						
7	19:40～21:10						

履修モデルの構成図



資料 9

修士論文作成スケジュール

1 年次

4 月	指導教員の決定 研究科の趣旨と目的について理解を図り、履修指導を受ける。
	↓
6 月	研究テーマの提出
	↓
12 月	修士論文作成計画の提出
	↓
	(文献・資料研究・調査研究・予備調査の開始・論文草案の作成)

2 年次

6 月	第 1 回修士論文中間報告会
	↓ 論文作成指導上の意見交換
7 月	修士論文の題目と概要の提出
	↓
11 月	第 2 回修士論文中間報告会
	↓ 論文作成指導上の意見交換
1 月	修士論文提出
	↓
2 月	修士論文発表会及び審査
	↓
3 月	学位の授与

資料 10

北海道文教大学大学院「リハビリテーション科学研究科」、「こども発達学研究科」教員の定年特例申合せ

(平成 28 年 2 月 23 日 理事会決定)

北海道文教大学大学院「リハビリテーション科学研究科」、「こども発達学研究科」を増設するのに伴い、平成 29 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの間に採用される教育職員の定年については、次の基準により行う。

1. 教育職員の範囲

教授、准教授、講師、助教

2. 現職から引き続いて採用する者の定年は、鶴岡学園就業規則第 19 条を適用する。

3. 定年の経歴を有する者又は定年後に採用する者

(1) 教 授

① 70 歳以上の者— (73 歳定年)

〔ただし、採用時並びに在職中に 73 歳を超える者は平成 31 年 3 月 31 日を限度とする。〕

② 65 歳以上 70 歳未満の者— (70 歳定年)

〔ただし、採用時並びに在職中に 70 歳を超える者は平成 31 年 3 月 31 日を限度とする。〕

(2) 准教授、講師、助教

① 65 歳以上 70 歳未満の者— (70 歳定年)

〔ただし、採用時並びに在職中に 70 歳を超える者は平成 31 年 3 月 31 日を限度とする。〕

附 則

1. この申し合わせは、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

北海道文教大学大学院「リハビリテーション科学研究科」、「こども発達学研究科」教員の給与特例申合せ

(平成 28 年 2 月 23 日 理事会決定)

北海道文教大学大学院に「リハビリテーション科学研究科」、「こども発達学研究科」を増設するのに伴い、平成 29 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの間に採用される教育職員の給与の決定等については、次の基準により行う。

1. 教育職員の範囲

教授、准教授、講師、助教

2. 現職から引き続いて採用する者は、鶴岡学園給与規程による。

ただし、特に考慮を要する者については第 3 項第 3 号を準用する。

3. 定年の経歴を有する者又は定年後に採用する者

(1) 号俸等の調整 — 学歴・職歴等を基礎に給与決定の号俸等の調整を行う。

この場合の最高年齢を 56 歳とする。

(2) 給 与 決 定 — (1) の調整を基に、次の区分別に給与規程の基本給表により個々に交渉して給与の決定を行う。

①教授

一 70 歳以上の者又は担当授業時間数が少ない者 400 万円見当

二 65 歳以上 70 歳未満の者又は担当授業時間数が平均的な者 600 万円見当

三 60 歳以上 65 歳未満の者又は担当授業時間数が平均的な者 700 万円見当

②准教授、講師、助教

一 65 歳以上の者又は担当授業時間数が少ない者 400 万円見当

二 60 歳以上 65 歳未満の者又は担当授業時間数が平均的な者 600 万円見当

(3) 上記 (1)、(2) の調整の他、特に必要な場合は理事会において給与を決定する。

附 則

1. この申しあわせは、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

学校法人鶴岡学園就業規則（抄）

（平成3年12月7日 則 第6号）

第1章 総則

（目的）

第1条 この規則は、労働基準法（昭和22年法律第49号。以下「労基法」という。）

第89条の規定により学校法人鶴岡学園（以下「学園」という。）の職員の就業に関する基本的な事項を定めるものである。

（用語の定義）

第2条 この規則において職員とは、第5条の規定により学園に採用された者をいう。

2 職員のうち、教育に直接従事する職員を教育職員、事務及びその他の業務に従事する職員を一般職員という。

3 所属長とは、次の各号に定める者をいう。

- ① 学校法人鶴岡学園 事務局長
- ② 北海道文教大学長
- ③ 北海道文教大学明清高等学校長
- ④ 北海道文教大学附属幼稚園長

（適用範囲）

第3条 この規則は、前条第1項に定める職員に適用する。ただし、次の各号に掲げる者の就業に関する事項については、それぞれの就業規則の定めるところによる。

- ① 嘱託職員 嘱託職員就業規則
- ② 臨時職員 臨時職員就業規則
- ③ 特別嘱託職員 特別嘱託職員就業規則

第4条～第14条 略

第4節 降任、解雇、退職及び定年

（降任・解雇）

第15条 職員が次の各号の一に該当する場合は、これを降任し又は解雇することができる。

- ① 心身の故障のため職務の遂行に支障があり、又はこれに耐えられないとき
- ② 職務に必要な適格性を欠くとき
- ③ 前各号のほか、業務の都合によりやむを得ないとき
- ④ 削除
- ⑤ 削除

2 前項の規定により解雇する場合は、学園給与規程による1ヵ月分の給与相当額を支給する。

（退職日）

第16条 職員が次の各号の一に該当する場合は、当該各号に定める日をもって退職とする。

- ① 死亡したとき 死亡の日
- ② 削除
- ③ 休職期間が満了し、復職することができないと認められるとき

休職期間満了の日

- ④ 第19条の定年に達したとき 定年に達した最初の3月31日
- ⑤ 退職を願い出たとき 学園が承認した日
- ⑥ 第6条の2の契約が満了したとき 契約期間満了日

(退職願)

第17条 職員が自己の都合により退職しようとするときは、その日の14日前までに退職願を提出しなければならない。

(事務引継)

第18条 職員が退職し、又は解雇されたときは、速やかに保管品及び貸与品を返納し、業務上の書類とともに後任者又は所属長が指定する者に事務引継を行わなければならない。

(定年)

第19条 職員の定年は次の各号に定める年齢とする。

- ① 北海道文教大学の教授、准教授、講師、助教及び助手 65歳
- ② 前号以外の職員 60歳

2 削除

3 削除

(再雇用)

第19条の2 前条の規定により退職する前条第1項第2号に定める職員のうち、当該職員が希望する場合は、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律(昭和46年法律第68号、以下「高年齢者雇用安定法」という。)第9条の規定に基づき、解雇事由または退職事由に該当しない者の場合は、65歳までを限度とし嘱託職員として再雇用する。

第20条～第61条 略

附 則

この規則は、昭和34年1月19日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において、現に在職する教授は65歳に達した後は、理事会に諮り1年契約で嘱託職員として68歳まで勤務することが出来る。
- 3 平成9年4月1日施行の附則第2項第1号は、本附則の第2項を適用する。
- 4 学部、学科の設置等により採用する職員は、その都度「定年特例申合せ」を定め適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日において、現に在職する職員のうち、契約期間の満了日が平成25年4月1日以降の職員については、同満了日から引き続く契約期間から第6条の2第2項を適用する。
- 3 第19条の2が適用される職員のうち、下表に左欄に定める期間については、同条の規定にかかわらず、右欄に掲げる雇用年齢まで嘱託職員として再雇用する。

期 間	雇用年齢
平成 25 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日	61歳まで
平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日	62歳まで
平成 31 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日	63歳まで
平成 34 年 4 月 1 日から平成 37 年 3 月 31 日	64歳まで

- 4 前項に定める雇用年齢以上の者のうち、高年齢者雇用安定法附則第 3 項に基づき、なお効力を有することとされる改正前の高年齢者雇用安定法第 9 条第 2 項に基づく労使協定の定める基準に該当する者にあつては、65 歳まで再雇用する。

学校法人鶴岡学園嘱託職員就業規則（抄）

（平成 9 年 4 月 26 日 則 第 3 号）

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 この規則は、学校法人鶴岡学園就業規則（昭和 34 年 1 月 19 日制定）（以下「学園就業規則」という。）第 3 条第 1 項第 1 号に規定する、嘱託職員の就業に関する事項を定めることを目的とする。

（定義）

第 2 条 この規則において嘱託職員（以下「職員」という。）とは、学校法人鶴岡学園（以下「学園」という。）の特別の必要から、教育・研究及び学校運営に豊富な経験を有する者が学園就業規則の適用を受ける者と異なる所定労働時間で、かつ、労働契約の期間を定めて第 4 条の規定により採用された次に掲げる者をいう。

① 学園内の職員は学園就業規則第 19 条に規定する定年年齢を超えた者

② 学園外の者は定年及び定年の経歴を有する者

（雇用期間）

第 3 条 前条に規定する職員の雇用期間は、当該年度末までの一年以内とする。

2 前項による雇用期間満了の場合には、何らの通知を要せず当然に雇用契約が終了して退職する。

（職員の雇用）

第 4 条 職員は、次のように雇用する。

2 雇用職種は、教育職員及び一般職員とする。

3 雇用期間は、第 3 条第 1 項の期間を、最大 5 回まで繰り返すことができる。

4 第 2 項の雇用職種が北海道文教大学の教育職員の場合、満 70 歳に達する年度末までを雇用限度とする。

5 第 2 項の雇用職種が北海道文教大学明清高等学校及び北海道文教大学附属幼稚園教育職員の場合、満 65 歳に達する年度末までを雇用限度とする。

6 第 2 項の雇用職種が一般職員の場合、満 65 歳に達する年度末までを雇用限度とする。

第 5 条 ～ 第 58 条 略

附 則

この規程は平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

学校法人鶴岡学園特別嘱託職員就業規則（抄）

（平成 25 年 3 月 21 日 則 第 2 号）

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 この規則は、学校法人鶴岡学園就業規則（昭和 34 年 1 月 19 日制定。以下「学園就業規則」という。）第 3 条第 1 項第 3 号に規定する、特別嘱託職員の就業に関する事項を定めることを目的とする。

（定義）

第 2 条 この規則において特別嘱託職員（以下「職員」という。）とは、学校法人鶴岡学園嘱託職員就業規則（以下「嘱託職員就業規則」という。）第 4 条及び学校法人鶴岡学園臨時職員就業規則（以下「臨時職員就業規則」という。）第 4 条に規定する年齢に達した日以後に労働契約の期間が満了したことにより学園を退職し、引き続き本規則第 4 条の規定により再雇用された者、並びに学校法人鶴岡学園（以下「学園」という。）の特別の業務等を委嘱するため、学園が雇用を認めた者で雇用期間を定めて本規則第 4 条の規定により採用された者のうち、嘱託職員就業規則及び臨時職員就業規則の適用を受けない者をいう。

（雇用期間）

第 3 条 前条に規定する職員の雇用期間は、当該年度末までの一年以内とする。

2 前項による雇用期間満了の場合には、何らの通知を要せず当然に雇用契約が終了して退職する。

（職員の雇用）

第 4 条 職員は、次のように雇用する。

2 雇用職種は、教育職員及び一般職員とする。

3 雇用期間は、第 3 条第 1 項の期間を、最大 5 回まで繰り返すことができる。

4 第 2 項の雇用職種が北海道文教大学の教育職員の場合、満 73 歳に達する年度末までを雇用限度とする。

5 第 2 項の雇用職種が北海道文教大学明清高等学校及び北海道文教大学附属幼稚園教育職員の場合、満 70 歳に達する年度末までを雇用限度とする。

6 第 2 項の雇用職種が一般職員の場合、満 70 歳に達する年度末までを雇用限度とする。

7 第 4 項から第 6 項の年齢に達した日以後、なお余人をもって換え難い者として学園が特に雇用を認めた者にあつては、理事会の決定による雇用期間とする。

第 5 条 ～ 第 56 条 略

附 則

1 この規程は平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2 学校法人鶴岡学園特別嘱託職員の雇用に関する申合せ（平成 16 年 2 月 20 日理事会決定）は、廃止する。

資料 11

各教員の1週間の時間割

授業担当者		前 期	後 期	備 考
後藤 守 (学部9コマ, 大学院8コマ)	学 部	知的障がい者の心理・生理・病理, 基礎ゼミナールⅠ,Ⅲ, こども学総 合演習Ⅰ	特別支援教育総論, 基礎ゼミナールⅡ, 教育心理学, 発達障害等教育総論, こど も学総合演習Ⅱ	附 属 子 育 て 教 育 地 域 支 援 セ ン ター 長
	大学院	こども発達支援総論, インクルーシ ブな教育・保育特論, こども発達学 実践演習Ⅰ, こども発達学特別研究 Ⅱ	特別支援教育方法特論, 気になる子ども の発達支援特別演習, こども発達学特別 研究Ⅰ, こども発達学特別研究Ⅲ	
三上 勝夫 (学部7コマ, 大学院, 7 コ マ)	学 部	基礎ゼミナールⅠ,Ⅲ, こども学総 合演習Ⅰ	基礎ゼミナールⅡ, こども学総合演習 Ⅱ, 教職実践演習(1),(2),	図 書 館 長
	大学院	こども発達支援総論, こども発達学 実践演習Ⅲ, 教育課程・方法特論, こども発達学特別研究Ⅱ	教育課程・方法特別演習, こども発達学 特別研究Ⅰ, こども発達学特別研究Ⅲ	
佐藤 公治 (学部0コマ, 大学院7コマ)	学 部			
	大学院	こども発達支援総論, こども発達特 論, こども発達学実践演習Ⅲ, こど も発達学特別研究Ⅱ	こども発達特別演習, こども発達学特別 研究Ⅰ, こども発達学特別研究Ⅲ	
梅津 徹郎 (学部9コマ, 大学院3コマ)	学 部	基礎ゼミナールⅠ, 教育課程概論, 教育方法論, 卒業研究Ⅰ(2コマ)	基礎ゼミナールⅡ, 教科教育法(社会), 社会科概論, 卒業研究Ⅱ	
	大学院	こども発達学特別研究Ⅱ	こども発達学特別研究Ⅰ, こども発達学 特別研究Ⅲ	
小田 進一 (学部8コマ, 大学院, 5コマ)	学 部	社会福祉, 保育実習指導Ⅰ(2コマ)	保育課程論, 保育実習指導Ⅰ(2コマ), 保育実習指導Ⅱ(2コマ)	附 属 幼 稚 園 長
	大学院	こども発達学実践演習Ⅱ, こども発 達学特別研究Ⅱ	教育方法実践特別演習, こども発達学特 別研究Ⅰ, こども発達学特別研究Ⅲ	
佐藤 義昭 (学部6コマ, 大学院3コマ)	学 部	病弱者の心理・生理・病理, 病弱教 育, 基礎ゼミナールⅠ,Ⅲ	肢体不自由児の心理・生理・病理, 基礎 ゼミナールⅡ	
	大学院	こども発達学特別研究Ⅱ	こども発達学特別研究Ⅰ, こども発達学 特別研究Ⅲ	
高橋 道也 (学部0コマ, 大学院1コマ)	学 部			
	大学院		特別支援教育コーディネーター特論	
川端 愛子 (学部9コマ, 大学院6コマ, 子育て支援セ ンター(4コ マ)	学 部	教育相談論Ⅰ(A)・(B)・(C), 基礎ゼ ミナールⅠ	基礎ゼミナールⅡ, 教育相談論Ⅱ(A)・ (B)・(C), 臨床心理学	子 育 て 教 育 地 域 支 援 セ ン ター 担 当 : 週 8 時 間 (4 コマ)
	大学院	発達支援活動分析評価法実践演習, こども発達支援・臨床相談特別演 習, こども発達学特別研究Ⅱ	こども発達支援・臨床相談特論, こども 発達学特別研究Ⅰ, こども発達学特別研 究Ⅲ	

子育て教育地域支援センター

センター長 後藤 守(こども発達学科・教授)

核家族化や少子化がすすんだことで、こどもを持つお母さんが不安や悩みを打ち明けられる子育て経験ゆたかな相談相手を身近で見つけにくくなっています。

本学の「子育て教育地域支援センター(通称 文教ペンギンルーム)」は、そうした問題の解決をめざして開設されました。

「文教ペンギンルーム」は、地域の乳幼児をもつ親やこども同士の交流の場として、また、将来、こどもの教育にたずさわりたいと考えている本学科学生の実習や研修の拠点として、2010 年春からいよいよ本格スタートを切りました。スタッフには、子育て支援・教育臨床活動を担う専門家を中心に、こども発達学科をはじめ人間科学部全学科の教員が参画。子育てに関する調査研究を深め、その成果を教育の充実に役立てていきます。まわりの人や物とのかかわりあいにより困難をきたしているこどもたちの関係力を育むプログラム、地域の保護者やこどもたちのふれあいのお手伝い、子育てに関する相談活動、公開講座や特別講演など、各種のプログラムも企画・実施していきます。

子育て教育地域支援センターホームページ



文教ペンギンルーム

「子育てトライアングルあいあい」

ニュース★2016年1月号★

お子さんとおかあさんへ

あけましておめでとうございます。昨年は文教ペンギンルームの活動にご協力いただきましてありがとうございました。12月には、学生ボランティアぺんぎんによる特別企画「ちょっぴり早いちいさなクリスマス」を行いました。たくさんのお子さんとおかあさんが参加してくださり、とても楽しい手作りのクリスマス会になりました。

さて、1月の「子育てトライアングルあいあい」は1月13日からスタートします。ぜひ、参加してくださいね。今年もどうぞよろしくお願いします。

2016年 文教ペンギンルーム★2016年1月★

「子育てトライアングルあいあい」

～おかあさんと一緒に大きなブロックで遊ぼう～

- ① 1月13日(水) 9:30～11:00 ブロック遊びと絵本の紹介 - 1
- ② 1月18日(月) 9:30～11:00 ブロック遊びと絵本の紹介 - 2
- ③ 1月20日(水) 9:30～11:00 ブロック遊びと絵本の紹介 - 3
- ④ 1月25日(月) 9:30～11:00 ブロック遊びと絵本の紹介 - 4
- ⑤ 1月27日(水) 9:30～11:00 ブロック遊びと絵本の紹介 - 5

今月の「ぬいぐるみメンバー紹介」

文教ペンギンルームでは、ぬいぐるみメンバーたちも一緒に活躍しています。今月は、あたらしくメンバーに加わったわにの「わにわにくん」を紹介します。



はじめまして。わにの「わにわに」です。ぼくは、ペンギンルームで、みなさんといっしょにあそぶのが、たのしみです。よろしくおねがいします！

こども発達学科の学生のみなさんへ

子育て支援学生ボランティアぺんぎん「ぺんぎんミニ研修会」のお知らせ

今月の「ぺんぎんミニ研修会」は、1月19日に、母親アドバイザーの小野誉子先生にお越しいただいて「日常の子育てと文教ペンギンルームでの体験」について話題提供していただきます。今回は、今年度内の母親アドバイザーの先生方によるシリーズの最終回になります。

来月以降のミニ研修会の日程と内容については次号でお知らせします。おたのしみに！

2016年1月19日(火) 9:00～11:00 (第48回ぺんぎんミニ研修会)

【問い合わせ先】

北海道文教大学子育て教育地域支援センター

『文教ペンギンルーム』(後藤 守・川端愛子)

Tel (0123) -29-8052 Email kawabata@do-bunkyo.ac.jp

ことしもよろしくおねがいします！



北海道文教大学研究倫理規程

(平成26年10月16日 則 第4号)

(前文)

大学における学術研究は、その高度な発展と共に、社会に対する責任は非常に大きくなってきていることに鑑み、学術研究に従事する研究者は、その研究の目的が何であるかを自覚して、自らの自由な研究活動を行うことに努め、その研究の成果は社会及び人類の幸福に寄与するものでなければならない。

一方、大学には教育機関としての重大な責務が課せられていると同時に、高度に専門化した研究を行う機関であり、他の研究機関との相互的交流のなかで研究活動を行っている。したがって、学術研究に携わる者は、真理の探究に謙虚であるとともに、学生の教育に努め、その人間性を尊重し、また、自らの研究に対し真摯でなければならない。

このような意味で、本学において学術研究を推進する者は、人間の生命の尊厳に立脚した研究の倫理に則って、研究・教育にあたらなければならない。

北海道文教大学は、本学の構成員が個人の良心に照らして行動するだけでなく、研究者としての倫理に基づき、あらゆる場面において適切に研究を遂行することができるよう努め、この課題を実現するために、ここに北海道文教大学研究倫理規程を定める。

(目的)

第1条 この規程は、北海道文教大学（以下「本学」という。）における学術研究が、科学的、社会的、倫理的観点から判断して適切に進められ、当該学術研究の信頼性と公正性が確保されるよう、研究を遂行する上で遵守すべき倫理規準を定め、もって、本学における研究の円滑な推進に資することを目的とする。

(研究の原則)

第2条 研究者は、高い倫理的規範のもとに、自律的に研究を遂行し、その結果に責任を持ち、研究に対して真摯で公正な態度をとるよう努めなければならない。

2 研究者は、個人それぞれをその人格性において尊重し、人間の尊厳と基本的人権を尊重しなければならない。

3 研究者は、国際的に認められた規範、規約、条約、国内の法令、告示及び本学の諸規程を遵守しなければならない。

(定義)

第3条 この規程で、研究者とは、本学の教員及び本学で研究活動に従事する学部学生、大学院学生及び研究生（以下「学生」という。）並びに本学で研究活動を行う共同研究者等、研究に関わる全ての者をいう。ただし、学部生及び大学院生の研究については、この規程の内容を熟知した指導教員の責任の下に行われているものとして取り扱う。

- 2 この規程で、研究とは、研究計画の立案、計画の実施、成果の発表・評価にいたるすべての過程における行為、決定及びそれに付随するすべての事項をいう。
- 3 この規程で、発表とは、自己の研究に係る新たな知見・発見又は専門的知見を公表するすべての行為を含むものとする。

(研究者の遵守事項)

第4条 研究者は、たえず自己の専門研究能力と知識の水準を高度に維持し、さらにその向上をめざして自己研鑽に努めなければならない。

- 2 研究者は、その研究活動において、文化、伝統、価値観及び規範の多様性の理解に努め、かつこれを尊重しなければならない。また、同活動において、性別、人種、出自、地位、思想、宗教などによる差別的扱いをしてはならない。
- 3 研究者は、共同研究者、研究協力者及び研究支援者等の人格並びにそれぞれの学問的立場を尊重しなければならない。
- 4 研究者は、学生が共に研究活動に関わる時は、広く教育的見地に立ち、不当な圧力や制限を蒙らないように十分な配慮をしなければならない。
- 5 研究者は、自らの研究活動について、その研究の計画・目的・進捗状況等を説明できるよう努めなければならない。
- 6 研究者は、研究成果の公表と社会への還元に努めなければならない。
- 7 人を含む生命を研究対象とする場合、その研究は科学的、社会的及び倫理的に妥当な方法で行わなければならない。
- 8 研究者は、利害関係者との金品授受等（学位審査時の金品授受を含む）を行ってはならない。

(研究のための情報・データ等の収集、利用及び管理)

第5条 研究者は、資料、情報、データ等を科学的かつ倫理的に適切な方法で収集しなければならない。

- 2 研究者は、収集した資料、情報、データ等について、消滅、漏洩、改ざん等を防ぐための適切な措置を講じ、適切な期間、これらを保存しなければならない。

(インフォームド・コンセント)

第6条 研究者は、個人の情報、データ等の提供を受けて研究を行う場合は、提供者に対してその目的、収集方法等について分かり易く説明し、提供者の明確な同意を得なければならない。

(個人情報の保護)

第7条 研究者は、収集した資料、情報、データ等で、個人を特定できるものは、正当な理由なくこれを他に洩らしてはならない。

(研究成果の発表)

第8条 研究者は、研究の成果を広く社会に還元するため、これを公表するように努め

なければならない。

2 研究者は、研究成果の発表に際しては、他の研究のもつ優先性を尊重するとともに、他者の知的財産権その他の権利を侵害してはならない。

3 研究者は、研究成果の捏造、改ざん、又は盗用等の不正行為をしてはならない。
この項において規定する、捏造、改ざん、盗用とは、次の行為をいう。

(1) 捏造とは、存在しないデータ、研究結果等を作成する行為をいう。

(2) 改ざんとは、研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工する行為をいう。

(3) 盗用とは、他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用する行為をいう。

4 研究者は、研究を遂行する上で助言を受けた者、援助を受けた組織に対し、研究成果の発表の際に、適切に謝意を表さなければならない。

(オーサーシップ)

第9条 研究者は、研究活動に実質的な関与をし、研究内容に責任を有し、研究成果の独創性に十分な貢献をしたと認められる場合に、オーサーシップが認められる。

2 共同研究の成果発表に際しては、共著者とその順位、連絡責任者を適切に決定し、共同研究者全員の合意を得なければならない。

(研究費の取扱)

第10条 研究者は、研究費の源泉が、学生納付金、国・地方公共団体等からの補助金、財団等からの助成金、あるいは寄付金等から提供されていることを常に留意し、研究費の適正な使用に努めなければならない。

2 研究者は、交付された研究費を当該研究に必要な経費にのみ使用しなければならない。

3 研究者は、研究費の使用に当たっては、本学の諸規程及び当該研究費の使用規程等を遵守し、その使途に関する書類等の管理を厳重に行い、研究期間終了後においても、一定期間保存するとともに、適切に説明責任を果たせるように努めなければならない。

(他者の業績評価)

第11条 研究者が他者の研究業績の評価に関わるときは、被評価者に対して予断を持つことなく、当該評価の評価基準等に従い、自己の見識及び知識に照らして適切に評価しなければならない。

2 研究者は、他者の業績評価に関わる中で知り得た情報を不正に利用してはならない。
当該業績に関する秘密は、これを保持しなければならない。

(ハラスメントの禁止)

第12条 研究者は、研究活動を行うにあたり、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等、いかなるハラスメントも行っては

ならない。

(利益相反)

第13条 研究者は、研究活動を行うにあたり、資金提供の財源、関連組織との関わり、及び可能性のあるすべての利害関係の衝突に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応しなければならない。

(北海道文教大学の責務)

第14条 本学は、本規程に基づいて、研究者の研究倫理意識の周知徹底を図り、必要な諸規程の整備、運営組織の設置・充実に努める責務を有する。

2 本学は、この規程の運用を実効あるものにするため、研究者の研究倫理に反する行為に対しては速やかに適切な措置を講じるものとする。

3 本条の目的を達成するため、本規程に定められた諸事項は北海道文教大学研究倫理審査委員会で扱うこととする。

4 前項の委員会に関する事項は別に定める。

(事務)

第15条 この規程に関する庶務は、事務局関係各課の協力を得て総務部総務課が処理する。

(改廃)

第16条 この規程の改廃は、教授会の議を経て理事会の承認を得るものとする。

附 則

この規程は、平成26年10月16日から施行する。

履修モデル

履修モデルⅠ 保育・幼児教育重視型

	1 年 次		2 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
実践力の 基礎科目 群	こども発達支援総論 こども発達特論 教育課程・方法特論	教育方法実践特論、 保護者支援特論	こども発達支援・臨床 相談特論	
理論と実 践の往還 から学ぶ 科目群	発達支援活動分析評 価法実践演習	こども発達特別演習 教育方法実践特別演 習	こども発達支援・臨床 相談特別演習 こども発達学実践演 習Ⅱ	気になる子どもの発 達支援特別演習
研究指導		こども発達特別研究 Ⅰ	こども発達特別研究 Ⅱ	こども発達特別研究 Ⅲ

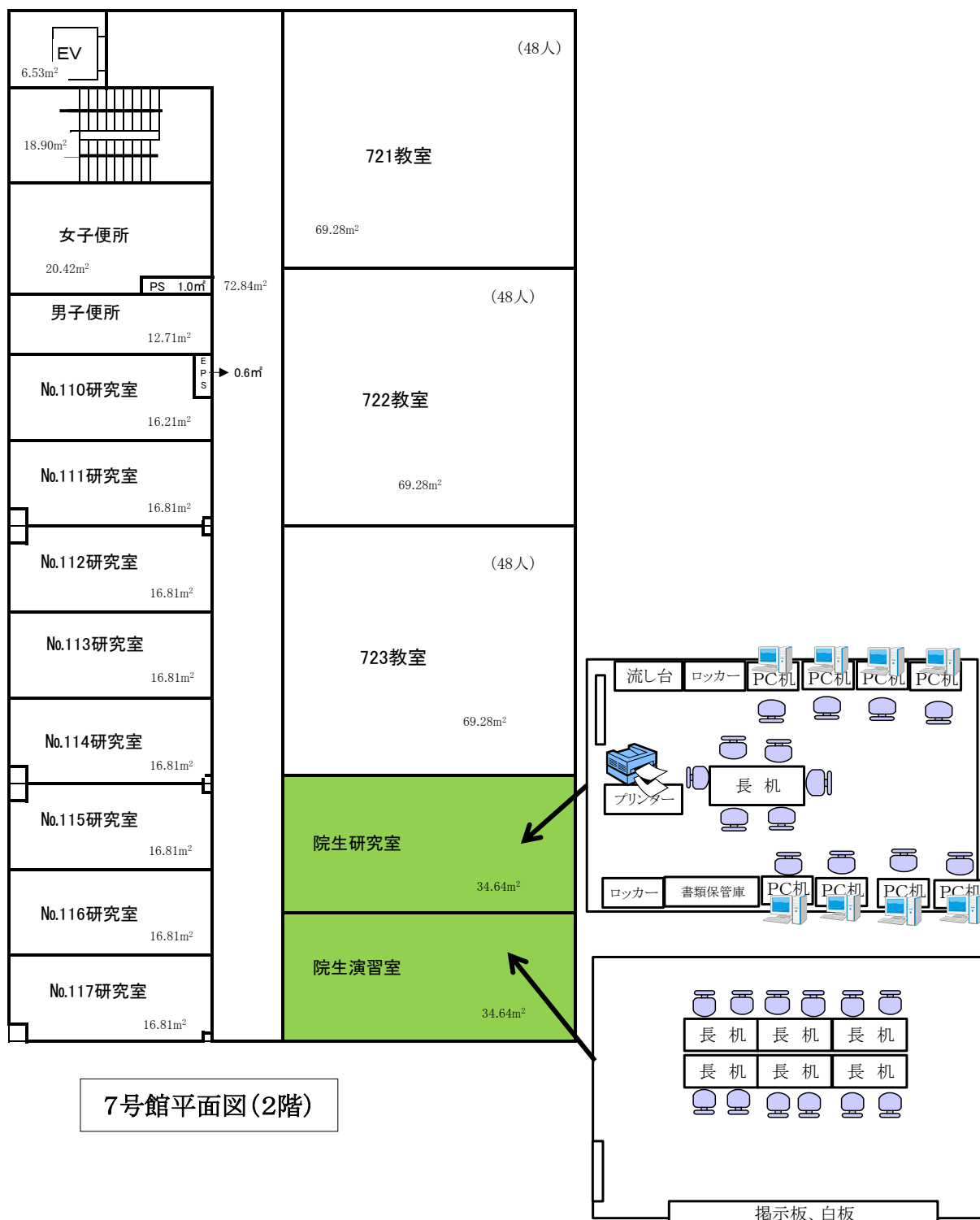
履修モデルⅡ 小学校教育重視型

	1 年 次		2 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
実践力の 基礎科目 群	こども発達支援総論 こども発達特論 教育課程・方法特論 <u>インクルーシブな教 育・保育特論</u>	教育内容・教材特論	こども発達支援・臨床 相談特論	特別支援教育方法特 論
理論と実 践の往還 から学ぶ 科目群	発達支援活動分析評 価法実践演習	教育課程・方法特別演 習 教育内容・教材特別演 習	こども発達学実践演 習Ⅲ	気になる子どもの発 達支援特別演習
研究指導		こども発達特別研究 Ⅰ	こども発達特別研究 Ⅱ	こども発達特別研究 Ⅲ

履修モデルⅢ インクルーシブな教育・保育重視型

	1 年 次		2 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
実践力の 基礎科目 群	こども発達支援総論 こども発達特論 インクルーシブな教 育・保育特論	教育方法実践特論 保護者支援特論	こども発達支援・臨床 相談特論	
理論と実 践の往還 から学ぶ 科目群	発達支援活動分析評 価法実践演習	教育方法実践特別演 習 特別支援教育コーデ ィネーター特論	こども発達支援・臨床 相談特別演習 こども発達学実践演 習Ⅰ	気になる子どもの発 達支援特別演習 発達障害実践特別演 習
研究指導		こども発達特別研究 Ⅰ	こども発達特別研究 Ⅱ	こども発達特別研究 Ⅲ

こども発達学専攻の院生研究室器具等配置図



こども発達学研究科関連図書一覧

	書名	出版社名	ISBN	分野
1	研究活動デザイン	東京図書	978-4-489-02136-7	研究法・倫理
2	研究倫理の確立を目指して	東北大学出版会	978-4-86163-259-4	研究法・倫理
3	人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック	慶應義塾大学出版会	978-4-7664-2255-9	研究法・倫理
4	学術論文の読み方・まとめ方	慶應義塾大学出版会	978-4-7664-1720-3	研究法・倫理
5	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	東京図書	978-4-489-02038-4	研究法・倫理
6	初めての心理学英語論文	北大路書房	978-4-7628-2800-3	研究法・倫理
7	認知発達研究の理論と方法	金子書房	978-4-7608-3034-3	研究法・倫理
8	人の発達段階を考慮したものづくり教育の体系化	風間書房	978-4-7599-2072-7	研究法・指導法・技術教育
9	学校臨床心理学への歩み～子どもたちとの出会い、教師たちとの出会い～	福村出版	978-4-571-24042-3	臨床心理学
10	心とかかわる臨床心理～基礎・実際・方法～ 第3版	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0931-5	臨床心理学
11	学級の仲間づくりに活かせるグループカウンセリング	金子書房	978-4-7608-2393-2	臨床心理学
12	通じ合うことの心理臨床	同成社	978-4-88621-688-5	臨床心理学
13	不登校の認知行動療法セラピストマニュアル	岩崎学術出版社	978-4-7533-1083-8	臨床心理学
14	不登校の認知行動療法保護者向けワークブック	岩崎学術出版社	978-4-7533-1084-5	臨床心理学
15	不登校児童・生徒への援助における自己概念の変容	風間書房	978-4-7599-2023-9	臨床心理学
16	アドルフ・マイヤーの精神衛生運動	共同文化社	978-4-87739-249-9	臨床心理学
17	教育相談の理論と方法	玉川大学出版部	978-4-472-40511-2	臨床心理学
18	ガイダンスカウンセリング	図書文化社	978-4-8100-3627-5	臨床心理学
19	石隈・田村式援助シートによる実践チーム援助	図書文化社	978-4-8100-2618-4	臨床心理学
20	体験型ワークで学ぶ教育相談	大阪大学出版会	978-4-87259-424-9	臨床心理学
21	スクールカウンセリングにおける予防的支援	風間書房	978-4-7599-1985-1	臨床心理学
22	教育臨床への学校ソーシャルワーク導入に関する研究	風間書房	978-4-7599-2037-6	臨床心理学
23	学校臨床心理学・地域援助特論	放送大学教育振興会	978-4-595-14044-0	臨床心理学
24	エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク	明石書店	978-4-7503-4144-6	臨床心理学
25	「子育て先進国」ニュージーランドの保育～歴史と文化が紡ぐ家族支援と幼児教育～	福村出版	978-4-571-11038-2	幼児教育
26	乳幼児-養育者の関係性 精神療法とアタッチメント	福村出版	978-4-571-24047-8	幼児教育
27	保育と社会福祉	みらい	978-4-86015-354-0	幼児教育
28	保育者のための相談援助	萌文書林	978-4-89347-230-4	幼児教育
29	実践・保育相談支援	みらい	978-4-86015-336-6	幼児教育
30	子どもの育ちと保育	金子書房	978-4-7608-2398-7	幼児教育
31	保育年報	全国社会福祉協議会	978-4-7935-1181-3	幼児教育
32	幼児心理にあわせた保育指導事典	日本図書センター	978-4-284-30768-0	幼児教育
33	幼児保育事典集成(1)	日本図書センター	978-4-284-30722-2	幼児教育
34	幼児保育事典集成(2)	日本図書センター	978-4-284-30722-2	幼児教育
35	幼児保育事典集成(3)	日本図書センター	978-4-284-30722-2	幼児教育

	書名	出版社名	ISBN	分野
36	幼児問題の事典	日本図書センター	978-4-284-30767-3	幼児教育
37	語りによる保育者の省察論	風間書房	978-4-7599-2076-5	幼児教育
38	保育の心理学Ⅰ・Ⅱ	建帛社	978-4-7679-5035-8	幼児教育
39	保育所2歳児クラスにおける集団での対話のあり方の変化	風間書房	978-4-7599-2077-2	幼児教育
40	親が参画する保育をつくる	勁草書房	978-4-326-60267-4	幼児教育
41	保育者のためのキャリア形成論	建帛社	978-4-7679-5022-8	幼児教育
42	明治後期の保育内容における「公正さ」に関する研究	風間書房	978-4-7599-2075-8	幼児教育
43	幼児の臨床心理事典 復刻	日本図書センター	978-4-2843-0769-7	幼児教育
44	社会構成主義キャリア・カウンセリングの理論と実践～ナラティブ、質的アセスメントの活用～	福村出版	978-4-571-24056-0	発達心理学
45	サビカス キャリア・カウンセリング理論～＜自己構成＞によるライフデザインアプローチ～	福村出版	978-4-571-24055-3	発達心理学
46	思春期の親子関係を取り戻す～子どもの心を引き寄せる「愛着脳」～	福村出版	978-4-571-24053-9	発達心理学
47	変容する臨床家～現代アメリカを代表するセラピスト16人が語る心理療法統合へのアプローチ～	福村出版	978-4-571-24052-2	発達心理学
48	保育のための心理学ワークブック	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0944-5	発達心理学
49	発達心理学の最先端	あいり出版	978-4-901903-25-7	発達心理学
50	発達理解の心理学	おうふう	978-4-273-03567-9	発達心理学
51	ガイドライン生涯発達心理学	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0681-9	発達心理学
52	ヒューマン・ディベロップメント	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0116-6	発達心理学
53	私はなぜ私なのか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0505-8	発達心理学
54	発達支援のための生涯発達心理学	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0202-6	発達心理学
55	発達心理学の脱構築	ミネルヴァ書房	978-4-623-06498-4	発達心理学
56	精神分析的発達論の統合	岩崎学術出版社	978-4-7533-0814-9	発達心理学
57	発達と家族の心理	久美出版	978-4-86189-088-8	発達心理学
58	生涯発達とあそび	三輪書店	978-4-89590-265-6	発達心理学
59	進化発達心理学	新曜社	978-4-7885-1096-8	発達心理学
60	発達科学ハンドブック	新曜社	978-4-7885-1278-8	発達心理学
61	人間関係の心理学	東京大学出版会	978-4-13-011129-4	発達心理学
62	親の離婚を経験した子どもの精神発達に関する研究	風間書房	978-4-7599-1902-8	発達心理学
63	教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学	文化書房博文社	978-4-8301-1269-0	発達心理学
64	人間発達論特論	放送大学教育振興会	978-4-595-14052-5	発達心理学
65	発達心理学特論	放送大学教育振興会	978-4-595-14041-9	発達心理学
66	胎生論心理学	黎明書房	978-4-654-00157-6	発達心理学
67	発達心理学事典	丸善出版	978-4-621-08579-0	発達心理学
68	発達家族心理学を拓く	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0287-3	発達心理学
69	認知や行動に性差はあるのか	北大路書房	978-4-7628-2732-7	発達心理学
70	女性の発達臨床心理学	金剛出版	978-4-7724-0990-2	発達心理学
71	日本版IFEEL Picturesに対する反応特性の研究	風間書房	978-4-7599-1708-6	発達心理学

	書名	出版社名	ISBN	分野
72	妊娠期の夢に現れた母性に関する研究	風間書房	978-4-7599-2087-1	発達心理学
73	子どもの心理臨床	誠信書房	978-4-414-41358-8	発達心理学
74	児童生徒理解のための教育心理学	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0714-4	発達心理学
75	英国の学習困難児に対する教育的アプローチに関する研究	風間書房	978-4-7599-1895-3	特別支援
76	自閉症児の語用論的能力に関する実証的研究	風間書房	978-4-7599-1709-3	特別支援
77	知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム～遊び活動から就学移行・療育支援まで～	福村出版	978-4-571-12119-7	特別支援
78	キーワードで読む発達障害研究と実践のための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援～福祉・労働制度・脳科学的アプローチ～	福村出版	978-4-571-42058-0	特別支援
79	発達障がいのある子どもへの支援介助法～子どもに痛みを与えないバニック対処スキル～	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0890-5	特別支援
80	スヌーズレンの世界～重度知的障がい者のこころよい時間と空間を創る～	福村出版	978-4-571-12126-5	特別支援
81	ASIST学校適応スキルプロフィール～特別支援教育・教育相談・障害者支援のために～	福村出版	978-4-571-12123-4	特別支援
82	「世界の特別ニーズ教育と社会開発」シリーズ	クリエイツかもがわ	978-4-86342-162-2	特別支援
83	インクルーシブ教育への提言	クリエイツかもがわ	978-4-86342-094-6	特別支援
84	気になる子の保育のための運動あそび・感覚あそび	チャイルド本社	978-4-8054-0217-7	特別支援
85	特別支援教育とインクルーシブ教育	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0578-2	特別支援
86	乳幼児の発達臨床と保育カウンセリング	ふくろう出版	978-4-86186-582-4	特別支援
87	インクルーシブ授業をつくる	ミネルヴァ書房	978-4-623-07205-7	特別支援
88	ソーシャルインクルージョンのための障害児保育	ミネルヴァ書房	978-4-623-07057-2	特別支援
89	発達障害のある子どもたちの家庭と学校	遠見書房	978-4-904536-59-9	特別支援
90	自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム	学苑社	978-4-7614-0761-2	特別支援
91	特別なニーズを持つ子どもを理解する	岩崎学術出版社	978-4-7533-1055-5	特別支援
92	特別支援教育コーディネーターの役割と連携の実践	教育出版	978-4-316-80364-7	特別支援
93	「気になる子ども」と「気にする先生」への支援	金子書房	978-4-7608-2373-4	特別支援
94	アスペルガー症候群のある子どものための新キャリア教育	金子書房	978-4-7608-2168-6	特別支援
95	ユニバーサルデザインの視点を活かした指導と学級づくり	金子書房	978-4-7608-9541-0	特別支援
96	自閉スペクトラム症のある子への性・関係性の教育	金子書房	978-4-7608-2653-7	特別支援
97	自閉症スペクトラム障害の子どもへの発達援助と学級づくり	高文研	978-4-87498-486-4	特別支援
98	発達障害親子支援ハンドブック	昭和堂	978-4-8122-1310-0	特別支援
99	気になる子どもの保育の基本あい・あい保育向上プログラム	診断と治療社	978-4-7878-2120-1	特別支援
100	保育士・幼稚園教諭・支援者のための乳幼児の発達からみる保育“気づき”ポイント44	診断と治療社	978-4-7878-2071-6	特別支援
101	学校におけるADHD臨床	誠信書房	978-4-414-41451-6	特別支援
102	発達障害のある子どもができることを伸ばす!	日東書院本社	978-4-528-01897-6	特別支援
103	特別支援教育における教師の指導困難とコンサルテーション	風間書房	978-4-7599-1979-0	特別支援
104	ワーキングメモリと特別な支援	北大路書房	978-4-7628-2821-8	特別支援
105	現象学的身体論と特別支援教育	北大路書房	978-4-7628-2887-4	特別支援

	書名	出版社名	ISBN	分野
106	特別支援児の心理学	北大路書房	978-4-7628-2892-8	特別支援
107	コミュニケーション力を育てる授業づくり	明治図書出版	978-4-18-124616-7	特別支援
108	基礎からはじめるインクルーシブ教育の実践	明治図書出版	978-4-18-006117-4	特別支援
109	特別支援学校新学習指導要領・授業アシスト1	明治図書出版	978-4-18-090122-7	特別支援
110	特別支援学校新学習指導要領・授業アシスト2	明治図書出版	978-4-18-090226-2	特別支援
111	特別支援学校新学習指導要領・授業アシスト3	明治図書出版	978-4-18-090315-3	特別支援
112	発達が気になる子の「ステキ」を伸ばすかわり方	明石書店	978-4-7503-4259-7	特別支援
113	「発達障害」の謎	論創社	978-4-8460-1233-5	特別支援
114	アジアの障害者教育法制	アジア経済研究所	978-4-258-29038-3	特別支援
115	特別支援教育研究文献要覧	日外アソシエーツ	978-4-8169-2488-0	特別支援
116	デフ・スタディーズろう者の研究・言語・教育	明石書店	978-4-7503-4139-2	特別支援
117	Inclusive Education～Policy, Contexts and Comparative Perspectives～	Routledge	978-1-138-14848-2	特別支援
118	Improving Low-Reading Ages in the Secondary School	Routledge	978-1-138-14611-2	特別支援
119	Promoting Inclusive Practice	Routledge	978-1-138-14857-4	特別支援
120	Inclusive Schooling(Rutgers Invitational Symposium on Education Series)	Routledge	978-1-138-97248-3	特別支援
121	子どもの言語学習能力	風間書房	978-4-7599-1968-4	言語学
122	教育のグローバル化と道徳の「特別の教科」化	図書文化社	978-4-8100-5663-1	教育方法
123	授業研究と校内研修	図書文化社	978-4-8100-4650-2	教育方法
124	東日本大震災からの復興と教育方法	図書文化社	978-4-8100-2617-7	教育方法
125	デジタルメディア時代の教育方法	図書文化社	978-4-8100-1603-1	教育方法
126	子どもの生活現実にとりくむ教育方法	図書文化社	978-4-8100-0570-7	教育方法
127	言語の力を育てる教育方法	図書文化社	978-4-8100-9548-7	教育方法
128	現代カリキュラム研究と教育方法学	図書文化社	978-4-8100-8522-8	教育方法
129	リテラシーと授業改善	図書文化社	978-4-8100-7504-5	教育方法
130	学習意欲を高める授業	図書文化社	978-4-8100-6474-2	教育方法
131	現代の教育課程改革と授業論の探求	図書文化社	978-4-8100-5454-5	教育方法
132	確かな学力と指導法の探究	図書文化社	978-4-8100-4437-9	教育方法
133	新しい学びと知の創造	図書文化社	978-4-8100-3408-0	教育方法
134	子ども参加の学校と授業改革	図書文化社	978-4-8100-2387-9	教育方法
135	学力観の再検討と授業改革	図書文化社	978-4-8100-1348-1	教育方法
136	日本パーソナリティ心理学会20年史	福村出版	978-4-571-20082-3	教育心理学
137	授業の心理学～認知心理学からみた教育方法論～	福村出版	978-4-571-21040-2	教育心理学
138	脳科学にもとづく子どもと青年のセラピー～日々の実践に役立つ治療法～	福村出版	978-4-571-24044-7	教育心理学
139	これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0998-8	教育心理学
140	コミュニケーション研究のデータ解析	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0969-8	教育心理学
141	嘘の心理学(クロスロード・パーソナリティ・シリーズ 4)	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0766-3	教育心理学

	書名	出版社名	ISBN	分野
142	認知分析療法<CAT>による自己変革のためのマインドフルネス～あなたはなぜ「わな」や「ジレンマ」にはまってしまうのか?～	福村出版	978-4-571-24058-4	教育心理学
143	教育支援の心理学～発達と学習の過程～	福村出版	978-4-571-22049-4	教育心理学
144	ピアジェの構成主義と教育	あるむ	978-4-86333-092-4	教育心理学
145	言語教師認知の動向	開拓社	978-4-7589-2197-8	教育心理学
146	教育心理学のための統計学	誠信書房	978-4-414-30190-8	教育心理学
147	ふたごと教育	東京大学出版会	978-4-13-053085-9	教育心理学
148	想像力と教育	北大路書房	978-4-7628-2824-9	教育心理学
149	世界の学校心理学事典	明石書店	978-4-7503-3886-6	教育心理学
150	メタ認知の教育学	明石書店	978-4-7503-4227-6	教育心理学
151	フィンランドの子どもを支える学校環境と心の健康	明石書店	978-4-7503-3884-2	教育心理学
152	Conversation Analysis and Early Childhood Education	Routledge	978-1-4724-2532-4	教育心理学
153	日本の授業研究—Lesson Study in Japan— 上巻	学文社	978-4-7620-1981-4	教育課程
154	日本の授業研究—Lesson Study in Japan— 下巻	学文社	978-4-7620-1982-1	教育課程
155	デューイ実験学校における統合的カリキュラム開発の研究	風間書房	978-4-7599-2111-3	教育学
156	明治期の幼稚園における図画教育史研究	風間書房	978-4-7599-2119-9	教育学
157	幼少連携カリキュラムのデザインと評価	風間書房	978-4-7599-2085-7	教育学
158	塗り絵と子どもの絵画表現の発達的変容	風間書房	978-4-7599-2059-8	教育学
159	フレーベルのキンダーガルテン実践に関する研究	風間書房	978-4-7599-2027-7	教育学
160	ヴィゴツキーの情動理論の教育学的展開に関する研究	風間書房	978-4-7599-1966-0	教育学
161	乳幼児に対する母親のタッチに関する研究	風間書房	978-4-7599-2127-4	教育学
162	幼児期の絵本の読み聞かせ場面における大人の関わりに関する研究	風間書房	978-4-7599-2095-6	教育学
163	保育者の力量形成に関する実践的研究	風間書房	978-4-7599-2013-0	教育学
164	子どもの登校を支援する学校教育システム～不登校をのりこえる子どもと教師の関係づくり～	福村出版	978-4-571-10170-0	教育学
165	子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論	福村出版	978-4-571-11037-5	教育学
166	心理・教育のためのRによるデータ解析	福村出版	978-4-571-20076-2	教育学
167	学校での子どもの危機への介入～事例から学ぶ子どもの支援～	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0980-3	教育学
168	チームで取り組む生徒指導～アクティブ・ラーニングを通して深く学ぶ・考える～	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0927-8	教育学
169	事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助 第2版	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0965-0	教育学
170	学生が変わるプロブレム・ベースド・ラーニング実践法～学びを深めるアクティブ・ラーニングがキャンパスを変える～	ナカニシヤ出版	978-4-7795-1002-1	教育学
171	学校と教師を変える小中一貫教育～教育政策と授業論の観点から～	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0964-3	教育学
172	ケアの始まる場所～哲学・倫理学・社会学・教育学からの11章～	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0880-6	教育学
173	算数・数学教育の国際比較～TIMSS 2011～	明石書店	978-4-7503-3850-7	教育学
174	理科教育の国際比較～TIMSS 2011～	明石書店	978-4-7503-3849-1	教育学
175	子どもの生活を支える社会福祉	ミネルヴァ書房	978-4-623-07244-6	教育学

	書名	出版社名	ISBN	分野
176	異文化間教育とは何か	くろしお出版	978-4-87424-673-3	教育学
177	現代教育の争点・論点	一藝社	978-4-86359-091-5	教育学
178	ことば・学問・科学の考え方	開拓社	978-4-7589-8030-2	教育学
179	教育は何をなすべきか	岩波書店	978-4-00-061037-7	教育学
180	「日本型学校主義」を超えて	筑摩書房	978-4-480-01631-7	教育学
181	子どもが輝く教育の探究	文化書房博文社	978-4-8301-1265-2	教育学
182	循環型教育	文化書房博文社	978-4-8301-1276-8	教育学
183	図表でみる教育	明石書店	978-4-7503-4290-0	教育学
184	現代教育の理論と実践	大学教育出版	978-4-86429-370-9	教育学
185	コメニウスの世界観と教育思想	勁草書房	978-4-326-25100-1	教育学
186	学校運営協議会の導入による学校教育の改善過程に関する研究	大学教育出版	978-4-86429-317-4	教育学
187	教員の異文化体験	風間書房	978-4-7599-2114-4	教育学
188	国際教育開発の研究射程	東信堂	978-4-7989-1294-3	教育学
189	海外の教育改革	放送大学教育振興会	978-4-595-14051-8	教育学
190	日本の教育改革	放送大学教育振興会	978-4-595-31530-5	教育学
191	21世紀型スキルとは何か	明石書店	978-4-7503-4135-4	教育学
192	21世紀型スキルと諸外国の教育実践	明石書店	978-4-7503-4230-6	教育学
193	学校危機とコンサルテーション	新興医学出版社	978-4-88002-187-4	教育学
194	コミュニティ・スクールのポリティクス	勁草書房	978-4-326-25104-9	教育学
195	クラスで行う「ユニバーサル・アクティビティ」	東洋館出版社	978-4-491-03134-7	教育学
196	教職実践演習・教育実習指導	大学教育出版	978-4-86429-297-9	教育学
197	教師のための『学び合い』コミュニティのつくり方	北大路書房	978-4-7628-2888-1	教育学
198	子どもが輝く「学び」の創造	光生館	978-4-332-50027-8	教育学
199	Developing Pupils Social Communication Skills: Practical Resources	David Fulton Publishers	978-1-138-17233-3	教育学
200	Meeting the Learning Needs of All Children～Personalised Learning in the Primary School～	Routledge	978-1-138-14814-7	教育学
201	Young Children Playing	Springer Singapore	978-981-10-1205-1	教育学
202	Enhancing Learning Through Self-assessment	Routledge	978-1-138-14563-4	教育学
203	Differentiation and Diversity in the Primary School	Routledge	978-1-138-14719-5	教育学
204	Cultural Worlds of Early Childhood	Routledge	978-1-138-14805-5	教育学
205	Working Together in Children's Services 2nd ed.	Routledge	978-0-415-67473-7	教育学
206	Exploring Writing and Play in the Early Years, Second Edition	Routledge	978-1-138-14562-7	教育学
207	Early Childhood Policies and Systems in Eight Countries 1st ed. 2016	Springer International Publishing	978-3-319-39846-4	教育学

こども発達学研究科関連雑誌一覧

NO.	誌名	出版者	ISSN
1	保育学研究	日本保育学会	
2	チャイルド・サイエンス	日本子ども学会	
3	特殊教育学研究	日本特殊教育学会	
4	教育方法	図書文化	
5	初等教育資料	東洋館出版	04465318
6	特別支援教育研究	東洋館出版	18807275
7	実践障害児教育	学習研究社	02850788
8	こころの科学	日本評論者	09120734
9	特別支援教育の実践情報	学習研究社	09111123
10	教育ジャーナル	小学館	
11	社会福祉研究	鉄道弘済会	02862980
12	児童心理	金子書房	0385826X
13	月刊福祉	全国社会福祉協議会	13416669
14	保育の友	全国社会福祉協議会	0018327X
15	月刊保育とカリキュラム	ひかりのくに	
16	教育	国土社	03869938
17	Moe	偕成社	
18	実践国語研究	小学館	02888653
19	教育と医学	慶応義塾大学出版会	04529677
20	発達	ミネルヴァ書房	03883787
21	厚生 of 指標	厚生統計協会	04526104
22	保健の科学	杏林書院	00183342
23	こどもの栄養	日本児童問題調査会	13448471
24	体力科学	日本体力医学会	
25	Developmental Psychology	American Psychological Association	00121649
26	Child Development	Society for Research in Child Development	00093920
27	Monographs of the Society for Research in Child Development	Society for Research in Child Development	0037976x
28	Child Development Perspectives	Blackwell Publishing	17508592
29	The Journal of special education	SAGE Publications	00224669

※「ScienceDirect」のトランザクション利用により購読可能雑誌(抜粋例示)

1	Early Childhood Research Quarterly	13	Journal of School Psychology
2	Contemporary Educational Psychology	14	The Internet and Higher Education
3	Paediatrics and Child Health	15	Journal of Accounting Education
4	Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry	16	Journal of Applied Developmental Psychology
5	International Journal of Educational Development	17	Journal of Interprofessional Education & Practice
6	European Journal of Education and Psychology	18	Journal of Nutrition Education and Behavior
7	Health Professions Education	19	Educational Research Review
8	Journal of Experimental Child Psychology	20	Journal of Experimental Social Psychology
9	International Journal of Educational	21	Paediatrics and Child Health
10	Child Abuse & Neglect	22	Linguistics and Education
11	Teaching and Teacher Education	23	Patient Education and Counseling
12	Trends in Neuroscience and Education	24	Studies in Educational Evaluation

既設の人間科学部・こども発達学科とこども発達学専攻との相関

こども発達学科授業科目の名称

区分	科 目 名	区分
基	基礎ゼミナールⅠ～Ⅲ	演
基	こども学原論	講
基	こどもの心理学Ⅰ・Ⅱ	講・演
基	保育方法の研究	講
基	保育原理	講
基	保育者論	講
基	教職原論	講
基	教育基礎論	講
専	特別支援教育総論	講
基	障がい児保育Ⅰ・Ⅱ	演
基	知的障がい者の心理・生理・病理	講
基	子育て支援ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	演
基	社会福祉	講
基	児童家庭福祉	講
基	基礎音楽	講
基	こどもの食育Ⅰ・Ⅱ	演
専	こどもの保健Ⅰ・Ⅱ	演
専	こどもの食と栄養Ⅰ・Ⅱ	演
専	公衆衛生学	講
専	国際協力論	講
専	こどもの発達と幼小連携	講
専	家庭支援論	講
専	保育課程論	講
専	保育内容総論	演
専	教育課程概論	講
専	教育方法論	講
専	乳幼児心理学	講
専	重複障がい教育総論	講
基	肢体不自由者の心理・生理・病理	講
基	病弱者の心理・生理・病理	講
基	視覚・聴覚障がい者の心理・生理・病理	講
専	幼児の理解	講
専	青年心理学	講
専	教育制度論	講
専	生涯教育論	講
専	生徒指導の研究	講
専	地域活動論	講
専	ボランティア活動	演
専	道德教育の研究	講
専	特別活動の研究	講
専	社会的養護内容	演
専	社会的養護	講
専	保育内容Ⅰ～Ⅵ	演
専	乳児保育Ⅰ～Ⅱ	演
専	表現Ⅰ～Ⅳ	演
専	総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ	演
専	国語科概論・社会科概論・理科概論	講
専	生活科概論・家庭科教育概論	講
専	外国語活動指導論	講
専	こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ	演
専	相談援助	演
専	保育相談支援	演
専	教育相談論Ⅰ・Ⅱ	演
専	教科教育法 国語・社会・算数・生活	講
専	教科教育法 図画工作・家庭・体育	講
専	発達障がい等教育総論	講
専	知的障がい教育Ⅰ・Ⅱ	講
専	肢体不自由児教育Ⅰ・Ⅱ	講
専	病弱教育	講
専	視覚・聴覚障がい教育	講
専	小学校教育実習事前事後指導	演
専	小学校教育実習	実
専	特別支援教育実習講義	演
専	特別支援教育実習	実
専	幼稚園教育実習指導	実
専	幼稚園教育実習	実
専	保育実習指導Ⅰ～Ⅲ	演
専	保育実習Ⅰ～Ⅲ	実
専	教職実践演習（幼・小）	演
専	卒業研究Ⅰ・Ⅱ	演

基：専門基礎科目 専：専門科目

こども発達学専攻授業科目の名称

(こども発達学基礎科目群)

こども発達特論	講義
教育課程・方法特論	講義
インクルーシブな教育・保育特論	講義

(こども発達支援教育関連科目群)

教育内容・教材特論	講義
教育方法実践特論	講義
特別支援教育コーディネーター特論	講義
保育者支援特論	講義
こども発達支援・臨床相談特論	講義
特別支援教育方法特論	講義

(専攻必修科目群)

こども発達支援特論	講義
発達支援活動分析評価法実践演習	演習
こども発達特別課題研究Ⅰ	演習
こども発達特別課題研究Ⅱ	演習
こども発達特別課題研究Ⅲ	演習

(こども発達支援教育関連演習科目群)

こども発達特別演習	演習
教育課程・方法特別演習	演習
教育内容・教材特別演習	演習
教育方法実践特別演習	演習
発達障害実践特別演習	演習
こども発達支援・臨床相談特別演習	演習
気になる子どもの発達支援特別演習	演習

(こども発達学実践演習科目群)

こども発達学実践演習Ⅰ	実・演
こども発達学実践演習Ⅱ	実・演
こども発達学実践演習Ⅲ	実・演